

岡村だより

2月号



目次 *contents*

- ご挨拶 2
院長 坂本 泰三
- 新年のご挨拶 3
心臓血管外科部長 三和 千里
- 2020年のカテーテル検査・治療、
植え込みデバイス治療について 3
循環器内科部長 樽谷 康弘



岡村記念病院

ご挨拶

院長 坂本 泰三



昨年はCovid-19がパンデミックを引き起こし世界中が大混乱し、感染による被害もさることながら、経済的ダメージも多く、生活が困窮して社会が不安定になってしまいました。

医学界、経済界や色々の職種から多くの意見が出されていますが政治家たちも有効な対策を出せずにおり迷走が続いています。年が明けてから1日あたり3000人以上の感染者を記録し、最近では1500人程度で推移しているようです。

Covid-19による死亡率は、気候や民族による差はなく世界中、1~2%のようです。第一波に余裕を持って対応できたため、慢心や奢りがCovid-19に対する警戒を緩め、数々のGoToキャンペーンで人々が接触する機会が増え日本中に撒き散らかした結果が感染の拡大を引き起こしたのでしょうか？

中小の医療機関の多くはCovid-19に数々の理由により対応できないためCovid-19に感染した患者は入院制限を行っておりましたが、感染爆発のため、民間の中小病院も入院を受け入れなさいと言う圧力がかかるようになってきました。人材も少なく、ゾーニング管理できるような広い施設ではない病院が患者を受け入れれば、院内感染が広がり、基礎疾患のある患者や高齢者が多いこともあり、感染死者数を増加させることにならないでしょうか。Covid-19を受け入れている大病院ですらクラスターを発生した例は枚挙にいとまがないぐらいあります。またCovid-19感染が更に蔓延化すれば、中小病院も受け入れざるを得なくなり、院内感染を防ぐために、また感染者の管理は多くの人材を必要とし、マンパワーが低下して非Covid-19患者を退院させることとなります。しかし非Covid-19患者も入院加療の必要な疾患を持っており、このようなことが許されるはずありません。

Covid-19感染死者は現在のところ7000人程度、2018年の人口統計では、悪性腫瘍は37万人、心血管疾患は20万人、脳血管障害は10万人の死者数です。現在医療機関を含め社会全体がCovid-19対策に振り回されていますが、Covid-19に対応しながら上記の疾患をしっかり継続治療しなければならないのです。どういう対応が可能か、実施できるかは判然とせず、試行錯誤が続くことと思います。ただ救急治療を要する患者がCovid-19に感染していた場合は、全力を上げて循環器疾患の治療を行います。隔離や環境消毒も必要なため、状況により次の患者を受け入れることができなくなることはあると思います。

現在、当院において10数分でPCRの結果がわかる検査機器を導入し、結果が出るまでの10数分間に環境汚染を如何に少なくするか、そしてさらなる院内感染を防ぐために環境消毒や患者の隔離をどうするか検討中ですが、根本的にゾーニングや担当者の分離は当院ではできないというのが現実です。

ワクチンが効果的であっても接種が世界中に行き渡るには早くてもあと1-2年かかるものと思われません。その間は今の状況が続くことは覚悟しなければなりません。

最後に昨年の当院の診療実績と病診連携の実績をご報告させていただきます。(括弧内は一昨年のデータです。) 治療実績は以下に外科部長、内科部長よりご報告させていただきます。一日外来患者数 141人/日 (130人/日)、一日新患者数 18人/日 (18人/日)、一日入院患者数 53人/日 (50人/日)、紹介率45.1% (43.7%) でした。

昨年ののべ外来受診患者数35,206人 (36,403人) で入院患者数は3,447人 (3,447人)、連携においては5,519通 (5,756通) の紹介状を含めた情報提供を受け、さらに当院からは10,300通 (10,014通) の情報提供を行いました。

のべ外来受診患者数の減少は、やはり4-5月のCovid-19の非常事態宣言により外来受診者数が減ったのが原因です。これらの病院指標や循環器科、外科治療数から判断しますとCovid-19感染の最中、自分たちの医療は展開できたように思いますし、先生方のご支援に深く感謝いたしております。

今年もCovid-19感染の蔓延化する中、自分たちが担当すべく循環器医療が滞ることなく展開していきたいと思っております。

今年も先生方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

心臓血管外科部長 三和 千里



昨年中は当科診療にご協力いただきありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は皆様とともに新型コロナウイルスに翻弄された1年でしたが、手術総数560例以上、胸部心臓大血管手術は175例、腹部大血管手術は51例といずれも過去最高で一昨年より多くの手術をお任せいただき安定した成績を残すことができました。その他の血管手術も330例行い特に静脈瘤手術は269例でこちらも過去最高の手術数となりました。

昨年は、低侵襲手術（いわゆるMICS）の導入を行い僧帽弁形成、大動脈弁置換など18例にMICSを行いました。患者様はご高齢の方も含めて短期の入院で退院されており、今後も進めてまいりたいと思います。弁膜症に関しては昨年3月よりSutureless Valveの使用を開始しました。22例の患者様にSutureless AVR（うち3例がMICS）を使用し良好な成績を収めています。

またステントグラフト治療は22例で少しずつではありますが増加しており今後も進めてまいりたいと思います。

もう一つのトピックスとして循環器内科とともに重症心不全の患者さんの治療のためImpellaを2000年6月より導入し8例の患者さんに使用いたしました。従来PCPSとは違い、直接左心補助ができるデバイスであり、外科では高齢の心破裂の患者さんの救命ができました。心不全治療は今後とも我々の責務と考えています。

透析シャントも心臓血管外科医ならではの通常のシャント作成が困難な患者さんへの取り組みとしてフットワークよく対応していきたいと考えています。

さて今年は循環器内科とも共同したHeart TeamにてTAVI準備の1年となります。早期のTAVI導入に向け、今年1年十分な準備を行い2022年の実現を目指していく所存です。

皆様方のご紹介をいただき多くの手術を行えたことに感謝申し上げますとともに今年もさらに精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。どのようなご相談でもお気軽にいただければと存じます。

2020年のカテーテル検査・治療、植え込みデバイス治療について

循環器内科部長 樽谷 康弘



当院では、循環器疾患のなかでも冠動脈疾患や末梢動脈疾患をはじめとする虚血性疾患と不整脈疾患に関して、より専門性が高い医師が担当しています。

不整脈部門は2019年からはカテーテルアブレーション術者でもある不整脈専門医が4人となり、より充実した体制での2年目となりました。多くの患者様をご紹介頂き、不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療、植え込みデバイス治療とも昨年までに比べて大幅に増加しました。

虚血性心疾患に対するカテーテル検査・治療症例数は、ほぼ横ばいで推移しています。冠動脈疾患に対するカテーテル治療では、生体適合性の高い薬剤溶出ステントが主流となり、安全性・有効性が高いことを裏付ける臨床成績が蓄積されてきました。注目すべきガイドラインの変更点を3つご紹介します。

- ① スtent留置後に対するルーチンでの冠動脈造影は推奨されなくなりました。
- ② スtent留置後の抗血小板薬二剤併用期間が3～6か月に短縮されました。
- ③ スtent留置後のチエノピリジン系抗血小板薬の単独処方が可能となりました。

つまり、良好な経過が期待される症例では、PCI後3～6か月でアスピリンを中止してクロピドグレルまたはプラスグレル単剤となり、狭心症症状や心筋虚血が確認されなければ冠動脈造影は必要ない、という流れが今後スタンダードになっていくと考えられます。

一方、高齢化の影響もあり、他枝疾患、高度石灰化病変など、いわゆる複雑病変に対する当院での治療頻度は80%以上に上ります。そのため抗血小板薬二剤併用期間はガイドラインの推奨より長く、また術後の確認造影検査をお勧めする場合も少なくはありません。治療方針に関しては患者様の病状に合わせて判断していますので個別にご相談ください。

昨年はコロナ禍の影響からやむを得ず不急の検査・治療は延期させて頂くことがありました。しかしながらいまだ収まる気配はなく静岡東部地域においては拡大傾向にあります。当院は循環器専門病院でもありCOVID-19感染症への対応は厳しい現状ではありますが、感染拡大には十分に注意しつつ、可能な限り今まで通りの診療体制を維持して、コロナ禍でも必要とされる循環器診療を継続したいと思います。

以下に昨年の検査および治療の症例の内訳をお示しします。

1. カテーテル検査

(1) 冠動脈造影検査	1,293例 (1,439例)
(2) IVUS(血管内超音波検査)	845例 (825例)
(3) OCT(光干渉断層法検査)	54例 (53例)
(4) FFR(冠血流予備量比)	392例 (409例)
(5) EPS(電気生理学的検査)	20例 (7例)
(6) ※心臓CT検査	1,328例 (1,479例)

2. カテーテル治療

(1) PCI(冠動脈インターベンション)	799例 (765例)
・Rotablator(高速回転冠動脈アテレクトミー)	102例 (96例)
(2) PPI(末梢動脈インターベンション)	104例 (115例)
(3) Ablation(心筋焼灼術)	335例 (212例)
(4) 下大静脈フィルター留置術	3例 (8例)

3. 植え込みデバイス治療(新規・交換含む)

(1) ペースメーカー	122例 (108例)
(2) ICD(植え込み型除細動器)	10例 (4例)
(3) CRT-P(両室ペーシング)	3例 (2例)
(4) CRT-D(両室ペーシング機能付植え込み型除細動器)	13例 (4例)
(5) ILR(植え込み型ループレコーダー)	7例 (5例)

()内は2019年の症例数



岡村記念病院

開設者/医療法人社団宏和会 管理者/坂本 泰三

〒411-0904 静岡県駿東郡清水町柿田 293-1
TEL 055-973-3221 (代) FAX 055-973-3404
TEL 055-973-3228 (地域連携室直通)